

あなたのスキルは社会に役立つ

エンジニアだからできる社会貢献

東日本大震災の発生直後に発足したHack For Japanや「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げるCode for Japanのメンバーを始めとして、日本各地で技術を活用した社会貢献活動が行われています。本連載では、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアだからできる社会貢献」の取り組みをお届けします。

第128回

ウィキペディアタウンで地域の情報発信

● Code for 山城 青木 和人 (あおき かずと)  @ujigis

Code for ^{やましろ}山城の青木和人です。京都府山城地域を拠点に、ITによる社会貢献であるシビックテック活動をしています。今回はウィキペディアを通じて地域の情報発信を行う「ウィキペディアタウン」の取り組みを紹介します。

あらためて確認！ (Japan.recovering) ウィキペディアとは we.hack();

ウィキペディアのことはみなさんご存じですよね。ネット検索結果で上位に表示されることから、見かけたことのある方も多いでしょう。「用語の説明がそれらしく書いてあり、無料で使えるちょっと便利なサイト」という認識かもしれません。

ウィキペディアは、米国の非営利組織であるウィキメディア財団 (Wikimedia Foundation) が運営する、誰でも自由に閲覧・執筆できるインターネット上のフリー百科事典です。記事内容の中立性を保つため、広告は掲載せず、企業や個人からの寄付金で運営しています。寄付金はサーバの運営費や財団運営の人件費に充てています。

また、ウィキペディアの各言語版記事の執筆者や管理者は、無償で参加するボランティアが担っています。ウィキペディアの記事は、大学教授などの権威ある人だけが書いているわけではなく、世界中のみなさんの手によって作られています。ウィキペディアはインターネットを通じて多くの人たちが記述することで、人類の集合知を共有できるという、壮大なプロジェクトなのです。

ウィキペディアの歴史

ウィキペディア (Wikipedia) という名称は、百科事典を意味する“Encyclopedia”から作られた造語です。Webブラウザを用いて不特定多数のユーザーがコンテンツを編集できる「MediaWiki」システム (後述) を利用したウィキペディアは、2001年1月15日に英語版がスタートし、同年5月20日には日本語版が開始されました。当初の日本語版はローマ字 (英字) しか表示できませんでしたが、2002年9月1日に日本語の文字 (かな・漢字など) が利用可能になりました。日本語版ウィキペディアの記事項目は、2005年2月11日に10万項目、2016年1月19日に100万項目を突破し、開始から20年を超えた2021年11月12日には、130万項目の記事に到達しています^{注1}。130万記事達成時の総ページ数は3,828,997ページ、利用者は1,857,451人でした。

ウィキメディア財団のプロジェクトの1つ

ウィキペディアは、ウィキメディア財団が行うさまざまな「ウィキメディア・プロジェクト」^{注2} (表1) の1つである、百科事典プロジェクトです。同プロジェクトには、ウィキペディア以外にも、辞書やソースラースを作る「ウィクシヨナリー」や教育用テキスト

注1 ウィキメディア財団「Wikipedia:発表/130万項目達成」
<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?oldid=8671801>

注2 ウィキメディア財団「Wikipedia:ウィキメディア・プロジェクト」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:ウィキメディア・プロジェクト>

ト・学習用素材を作る「ウィキブックス」、ニュースを提供する「ウィキニュース」など、多くのプロジェクトが運営されています。各プロジェクト間は連携され、相互に活用できます。たとえば、記事内にある画像は、著作権フリーな画像、音声ファイル、ビデオなどのメディアファイルを収集するプロジェクトである「ウィキメディア・コモンズ」にアップロードした画像リンクを記事内に記述することで、画像を表示しています。

また、あまり知られていませんが、ウィキペディアはGNU Free Documentation License (GFDL) とクリエイティブ・コモンズ・ライセンス (CC-BY-SA) のデュアルライセンスを導入しています^{注3}。そのため、ウィキペディアの文章は、ウィキペディアからの出典であることを明記すれば、コンテンツを誰でも自由に複製・改変・再配布できる二次利用可能なオープンデータとなっています。



Wiki記法

ウィキペディアをはじめとするウィキプロジェクトでは、コンテンツ編集にMediaWikiを採用しています。MediaWikiは、ウィキペディア編集のために開発されたコンテンツマネジメントシステム (CMS) で、PHP 言語によってプログラミングされ、データベースにはMySQLやPostgreSQLを利用できます。「Wiki記法」と呼ばれるマークアップシステムでテキストの整形や修飾ができます。主なWiki記法は表2に示すような内容となっています。

また、近年はWiki記法を理解していなくても、マウスとキーボードでグラフィカルに編集可能な「ビジュアルエディター」も登場しており、初心者でもより参加しやすくなっています。ただし、ビジュアルエディターで編集できる機能はまだまだ開発途上であり、最終的なウィキペディアページの仕上げには、Wiki記法によるマークアップが必要となっています。

注3 ウィキメディア財団「Wikipedia: ライセンス更新」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:ライセンス更新>



引用文献に基づく記述

ウィキペディアの編集内容は、行動規範に基づく参加者同士の自治に任されていますが、執筆内容に関しては、「中立的な観点」「検証可能性」^{注4}「独自研究は載せない」という三大執筆方針が明示されています。ウィキペディアは百科事典ですので、「独自

注4 ウィキメディア財団「Wikipedia: 検証可能性」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:検証可能性>

◆表1 ウィキペディア・プロジェクトの一覧

名称	解説
ウィキペディア	百科事典
ウィクショナリー	辞書・シソーラス
ウィキブックス	教育用テキスト・学習用素材
ウィキニュース	ニュースの提供
ウィキクォート	引用句集
ウィキソース	著作権フリーな文書の収集・翻訳
ウィキバシシティ	教育・研究用素材
ウィキボヤージュ	旅行ガイド
ウィキメディア・コモンズ	メディアファイルの収集庫
ウィキメディア・インキュベーター	新規言語版プロジェクトの試験・開発
メタウィキメディア	ウィキメディア・プロジェクトに関する議論の場
ウィキスピーシーズ	生物分類目録
ウィキデータ	知識データベース
ウィキマニア	ウィキマニアの会議

◆表2 Wiki記法の一部

種類	入力内容	表示結果
どこに入力しても有効となるもの		
他との区別 (斜体)	"他との区別"	他との区別
強調 (太字)	"強調"	強調
斜体と強調	"斜体と強調"	斜体と強調
内部リンク	[[記事名]]	記事名
	[[記事名 表示文字]]	表示文字
	[[記事名#節名 表示文字]]	表示文字



研究」など、個人の主観による記述はふさわしくありません。そのため、論文や書籍、新聞記事などの資料をもとに、「中立的な観点」で、その内容をまとめて書くことが必要です。そして、資料の出典を明記することで、誰が、いつ、どの資料に書いた内容を基にしているのかが明確になります。これが「検証可能性」の担保です。編集内容は、ボランティアの管理者が常にチェックしており、執筆方針に基づかない記事は、管理者により引用文献の追記依頼などが行われ、従わない場合には管理者権限により、記事が削除されることもあります。

ウィキペディアは誰でも執筆できることから、小中学校などでは「ウィキペディアを信用してはだめ」と子どもたちに教えていることもあるようです。筆者らは、きちんと資料を調べて、それを基に執筆し、資料の出典を示したウィキペディアの文章を増やしていくことで、社会からより信頼されるようになると考えています。

ウィキペディアタウン

ウィキペディアタウンとは

誰でも書けると言っても、ウィキペディアを自ら書いた経験のある方は少ないのではないのでしょうか。そもそも書き方を教えてくれる人はいませんし、下手な内容を書くとネット上で炎上したり、編集合戦になったりするのでは？と思うかもしれません。また、自分がウィキペディアに書きたいと思えるほど詳しく知っている事柄がないこともあるでしょう。

とはいえ、自分たちが住んでいる地域のことは、誰しもある程度は知っていると思います。そこで、私たちは地域住民にウィキペディアの書き方を伝えて、自分たちの地域のことを自分たちで情報発信してもらおうという「ウィキペディアタウン」の取り組みを行っています。世界初のウィキペディアタウンは、2012年にイギリスのウェールズ地方にある、人口9,000人のモンマスという町で行われ、筆者らはこの取り組みを日本版ウィキペディアタウンとし

て、2014年2月から継続的に行っています。

ウィキペディアタウンは、一般の方が参加しやすい休日の10時～17時ごろに行います。午前中にウィキペディアタウンの趣旨説明をしてから、午後「まちあるき」を行います。まちあるきでは地域の歴史・まちづくりに関わる団体やボランティアガイドの方に協力いただき、地域の寺社・仏閣などの案内と説明を受けます。そして、ウィキペディアに掲載する写真撮影をしながら現地を見て歩きます(図1)。

午後はウィキペディア記事作成の講習を受けてからグループごとに2～3時間程度、ウィキペディアの執筆を行います。まずは執筆したい項目についての記述がある資料を探し、資料に載っていることをウィキペディアの文章にまとめていきます。作成した文章に資料の出典を明記したうえで、ウィキペディアにアップロードして完成です。最後に、執筆・作成したウィキペディアの画面を見ながら各グループが成果発表・共有を行います。

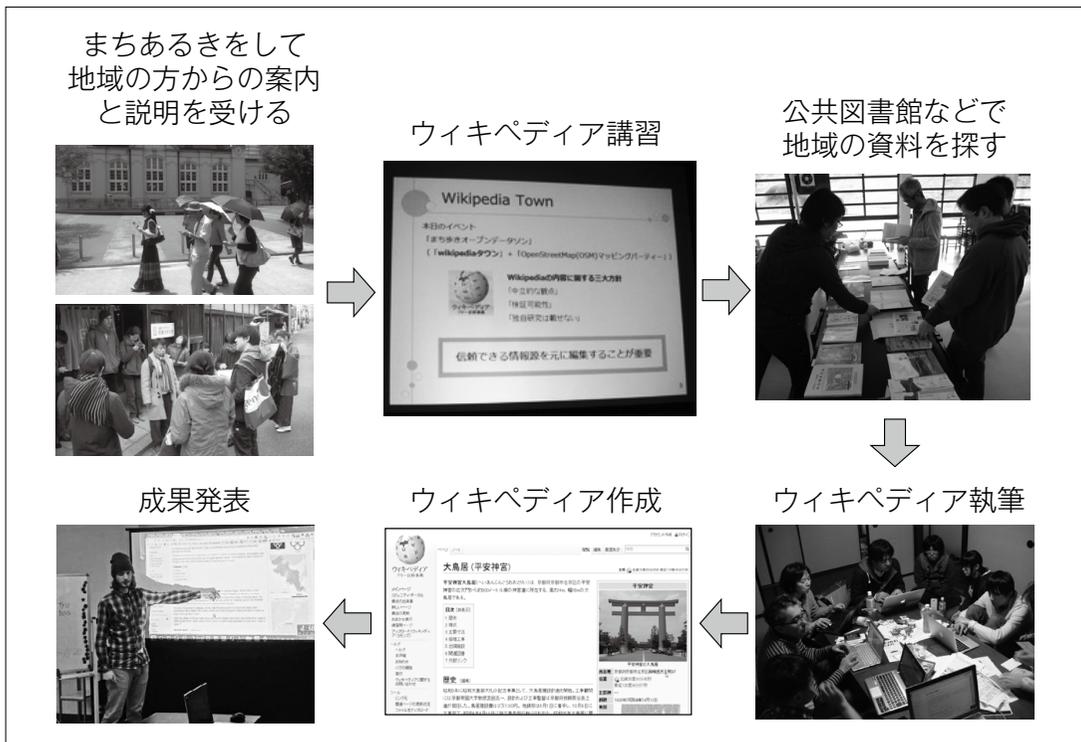
ウィキペディアタウンの意義

「でも、この辺りにはウィキペディアに載せるような観光地が何もないし……」という声もあるかもしれません。ここまで記事をお読みになった方から、こんな感想が聞こえてきそうです。しかし、観光名所や名産が何もないと思っている地域こそおもしろいのです。私たちはウィキペディアタウン活動を進めていく中で、そのことに気がつきました。ウィキペディアタウンで地域のことを調べてみると、それぞれの地域には、歴史・文化的に貴重な資産が多くあるのです。それらの情報は旅行会社の商業データベースに載っていないため、観光情報として発信されていないだけなのです。ウィキペディアタウンはそんな埋もれている地域の歴史・文化情報を地域住民自らで発掘し、ウィキペディアを通じて情報発信することで多くの人に知ってもらう可能性を開くものなのです。

若い世代が活躍

高校生によるウィキペディアタウンの事例を1つ紹介します。2016年7月28日に国立国会図書館関西

◆ 図1 ウィキペディアタウン開催の流れ



館で行われた京都府立南陽高等学校サイエンスリサーチ科の社会実習「ウィキペディア・タウン with 南陽高校」^{注5}では、地域の高校生たちが京都府の精華町にある「乾谷」と「柘榴」地域を説明するウィキペディアのページを作成しました。この社会実習では、南陽高校付近の集落を地域のボランティア団体に案内してもらいながら地元の歴史について学びました。そこで得られた知識をもとに、図書館の地域資料を参照しつつ、地域のウィキペディアのページを編集しました^{注6}。

「自分たちでウィキペディアのページができた！」と、高校生たちの目が輝いていました。地域のことを上の世代から若い世代に伝えてもらい、その内容をウィキペディアに掲載することで、インターネットを通じて多くの方々に発信する。そのことを地域の高校生たちがやってくれたのです。

注5 <https://ujigis.wordpress.com/2016/07/>

注6 <https://current.ndl.go.jp/e1852>

エンジニアのみなさんへ

ウィキペディアを編集するためには、Wiki記法の簡単な知識が必要です。そのため、ITスキルの高くないまったくの初心者が、マークアップの概念を理解して、すぐにウィキペディアの編集を行うにはハードルが高いという現実があります。よって、ウィキペディアタウンの開催にあたっては、ITスキルを必要としている方と経験豊富なエンジニア人材にバランス良く参加してもらい、ウィキペディアタウン活動の中で、いかに連携してもらえるようになるのか？という点に注力しています。エンジニアの方々には、Wiki記法による編集法の伝授や最終的な記事の仕上げなどの役割をお願いできればありがたいです。

本稿を読んで、もし「自分の地域でもウィキペディアタウンをやってみよう！」と思っていただけのなら、ぜひ協力したいと思います。SD